

スクラッチ開発の産廃計量システムと『SMILE V 販売』の連携が業務の効率化とスピードを向上させる



導入の狙い

- ・手作業を極力排除したシステムの構築
- ・現場の手間を減らして業務効率化を図りたい

導入システム

- ・基幹業務システム『SMILE V 販売』
- ・開発ツール『SMILE V Custom AP Builder (CAB)』

導入効果

- ・産廃計量システムと販売管理システムの円滑なデータ連携
- ・迅速な請求書発行の実現
- ・手作業によるヒューマンエラーの削減

USER PROFILE

株式会社 庄司興業所

【業種】解体工事・産業廃棄物処理業

【事業内容】一般住宅・施設の解体工事、産業廃棄物の処理、八戸市の不燃物・粗大ごみの収集運搬

【従業員数】91名(2025年5月現在)



2025年5月取材



『SMILE V 販売』とスクラッチ開発『産廃計量システム』を『SMILE V Custom AP Builder』がつなぐ

青森県八戸市に本社を構える株式会社庄司興業所は、解体工事や産業廃棄物の収集運搬・処分事業を通じて、長年地域社会の発展に貢献している。スクラッチ開発の『産廃計量システム』とOSKの基幹業務システム『SMILE V 販売』のシームレスなデータ連携によって、売上・請求業務に迅速に対応するとともに、ヒューマンエラーも激減させた。将来の事業拡張に向けて、今後の環境の変化にも柔軟に対応できる業務基盤の構築を実現している。

解体工事から産廃処理まで ワンストップサービスで提供

青森県八戸市で不燃物・粗大ごみの収集運搬委託業務を行う株式会社庄司興業所（以下、庄司興業所）は、1972年に設立された。その後、土木工事や建設工事なども手がけるようになり事業領域を拡大。現在は、青森県東部を対象とした一般住宅や施設の解体工事業と、産業廃棄物の収集運搬・処分事業をメインにビジネスを展開している。

「競合他社がひしめく中で、弊社は解体工事から産業廃棄物の最終処分に至るまでワンストップで対応しています。それが数多くのお客様から長年選ばれている大きな理由でしょう」と語るのは、常務取締役の庄司 裕利氏だ。

解体工事そのものから、解体工事に伴い発生する産業廃棄物の収集運搬をはじめ、コンクリートの破碎や廃石膏（せっこう）ボードの破碎分別などの中間処理と、最終的な廃棄物を管理型最終処分施設で処理し、埋め立てる作業までを一貫して行う。そのうえで、汚泥（無機性）の造粒固化や木材の再資源化も実施している。自社の施設ですべてを完結できるようにサービスの循環機構を構築していることから、処理に応じて複数の会社に委託する時間と手間を軽減できる、という取引先にとっての大きな利点があるのだ。産業廃棄物収集用の運搬車両を数多く所有する同社は、高いビルの解体作業で威力を発揮する超大型解体機も青森県内で先陣を切って導入している。

解体工事は建設工事以上に技術力が求められ、予想だにしない倒壊の危険性と背中合わせの作業だ。にもかかわらず、解体工事や産業廃棄物業界に対するイメージは、残念ながら低い。同社はそれらを払拭する取り組みにも力を注いでいる。「リサイクル」をもじったサイがモチーフの、親近

感のあるかわいらしい「セレス君」をマスコットキャラクターとして活躍させ、作業時は清潔感のある白とデニムのユニフォームを着用する。青森県に拠点のあるプロバスケットボールチーム「青森ワッツ」や、プロサッカーチーム「ヴァンラーレ八戸FC」のスポンサーとなり、八戸市にドクターヘリを誘致する活動にも積極的に寄与している。これらの活動は、同社の認知度向上や社会貢献という意味もあるが、この業界の人手不足の解消に向けた動きでもあるのだ。

スクラッチ開発と パッケージソフトのハイブリッド

産業廃棄物は、案件ごとに計量した伝票を基に請求書などを発行する。そのため同社では、トラックで収集・運搬した産業廃棄物を計量するための「トラックスケール」を中間処理施設に導入し、効率的に重量を可視化できる環境を整えている。

「トラックスケール」には、テレビカメラとインターホンが設置されているので、ドライバーはトラックに乗車したままで計量の受け付けが行える。まず産業廃棄物を搭載したトラックの重さを量り、次に降ろしたあとのトラックの重さを量る。その差が産業廃棄物の重量として計上される仕組みだ。

庄司興業所は2002年にスクラッチ開発で産廃計量システムをいち早く導入し、トラックスケールと接続して計量伝票や manifested 伝票の発行を行っていた。2007年には、それに付随する販売管理システムも開発して長年にわたり利用していた。しかし、徐々に経年劣化が進んでいたことに加えて、担当SEの退社に伴う継続的なメンテナンスの困難に加え、Windows 10への移行も難しい状況に陥っていた。

そのメンテナンスについて問い合わせをした先が、青森市に本社があり、八戸市にも営業拠点を持つキタヤマコンピュータシステム株



マスコットキャラクターの「セレス君」は、ホームページなど多くの場面で登場している

式会社（以下、キタヤマコンピュータシステム）であった。同社は現システムの継続ではなく、新システムの構築を提案した。その内容は、新たな産廃計量システムを開発し、OSKのパッケージソフト『SMILE V 販売』と連携させることで、将来の事業拡張や環境の変化に柔軟に対応できる基盤を構築するというものだった。旧販売管理システムで稼働していた産業廃棄物用と工事部用の2本は、今回の入れ替えに伴い『SMILE V 販売』に1本化されている。この新たな環境では、拡張性や柔軟性の高いOSKの開発ツール『SMILE V Custom AP Builder（以下、CAB）』を利用してシステム間のスムーズなデータ連携を行うことが重要なポイントだった。

庄司興業所はこの提案を受け、導入を決断。テスト運用を経て、2021年に本稼働した新産廃計量システムは、中間処理施

常務取締役
庄司 裕利氏

「売り上げや請求の業務が効率良くなるようになり、請求漏れなどのヒューマンエラーが激減しました。サポート体制も充実しているので安心して日々の業務が行えます」





さまざまな産業廃棄物の運搬車両。八戸市の不燃物・粗大ごみの収集運搬も行っている

設や最終処分場などの拠点を光回線のVPNで結び、『CAB』を利用して『SMILE V 販売』とのシームレスなデータ連携を実現している。

旧システムを継承しつつ 業務の改善へ

新産廃計量システムは、中間処理施設の「トラックスケール」で計量した産業廃棄物の重量を基に計量伝票を作成する重要な役割を担う。旧システムをベースとして、Windows 10で稼働するように改修したことに加え、販売管理システムとの連携においても大きく改善している。たとえば、画面で計量結果の内容をチェックし、問題がなければ『CAB』を経由して『SMILE V 販売』の売上データとして取り込む運用となった。これまでの手作業による手間を削減し、エラーを未然に防ぐことができるので、その効果は一目瞭然だ。

請求書の発行も大きく変わった。同社が使用する請求書には、産業廃棄物用と解体工事用があり、さらに産業廃棄物は法人用と個人用で用紙が異なる。そのように複雑なことに加え、急ぎの場合は現場監督の判断で、その場でExcelで作成して発行するケースもあったという。そのため、どのお客様に請求書が発行済みなのか、内容

が正しいのかを事務スタッフが把握できないだけでなく、請求漏れが発生する危険もあった。システム刷新を契機に、Excelでの請求書作成は禁止し、『SMILE V 販売』から発行した請求書のみを使用するルールに統一したことで、そのような心配もなくなった。

「請求書の作成ルールを周知徹底したので、発行状況をきちんと確認できるようになり、現場監督も、自分で請求書を探す手間がなくなりました。お客様の個人情報が流出する心配もなくなり、セキュリティ対策も大幅に強化されています」（庄司氏）

社内展開するにあたって、事前に社員

研修を実施し、本稼働後もキタヤマコンピュータシステムが継続的にサポートしている。操作に慣れるまでは多少時間がかかったが、実際に日々の業務で利用している事務スタッフからは、作業の手間が大幅に軽減されたと好評だ。

手間と時間の削減、 さらなる効率化を目指して

解体工事では、案件ごとに木造や鉄骨、コンクリートの解体などに分別して、それぞれの実施状況などを記載した報告書を作成し、自治体に提出することが義務付けられている。

「以前は、年間380件ほどある解体工事の報告書作成のために、木造や鉄骨などそれぞれの件数を、ほぼ1日かけて手作業で振り分けて集計していました。現在は、『SMILE V 販売』の明細から振り分けて集計ができるので、作業時間は、わずか30分ほどです」と庄司氏は手間と時間が飛躍的に軽減された効果を語る。

今後の課題は、見積書を『SMILE V 販売』で作成し、社内でも共有できる体制を整えることだという。

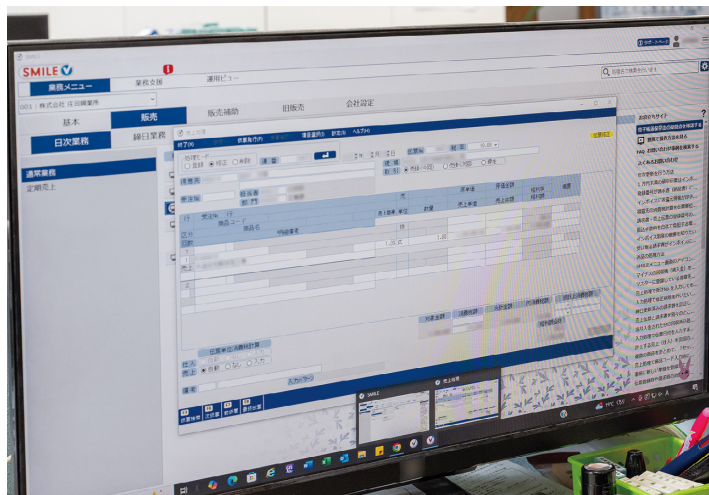
工事現場の担当者がExcelでの見積書作成から脱せないのには理由がある。ハウスメーカーから依頼された見積書は、提出



庄司興業所が所有する高層部の解体が可能な「コベルコ建機SK550」のボディ部分。アーム部分と組み合わせて使用する。青森県で唯一の同機の操作には、技術力が求められ、高所解体において活躍する

後に「個人のお客様との直接契約をお願いします」と頼まれるケースが少なくないのだ。そのような場合、見積書の内容や宛名、住所などの変更が必要となる。また、見積書の作成時と契約時で契約者が異なる場合もある。そのような背景から、修正しやすく融通が効くExcelから切り替えることに踏み切れないでいるのだが、データを正確に一元管理するためにも、いずれは検討していくつもりだ。

また、将来的には、『SMILE V 販売』とゼンリンの地図情報との連携を考えているという。これまでに、いつ、どこで、どのような解体工事を実施したのかが一目でわかるだけでなく、見積もり依頼を受けた際に、すでに別業者から依頼を受けていることが可視化できれば、業務をさらに効率化することができるだろう。庄司興業所のIT活用は、これからも加速していく。



新産廃計量システムと連携する「SMILE V 販売」



株式会社 庄司興業所のホームページ

<https://www.syouji.jp/>

お問い合わせ